

タイトル	献辞
著者	安酸，敏真；YASUKATA, Toshimasa
引用	北海学園大学人文論集(54)：1-2
発行日	2013-03-31

献 辞

人文学部長 安 酸 敏 眞

2013 年 3 月末日をもって、日本文化学科の寺田稔教授と小野寺静子教授が停年退職されますので、学部長としてひとこと送別の辞を述べさせていただきます。

寺田稔先生は、昭和 42 年に立正大学文学部をご卒業後、同大学院文学研究科修士課程および博士課程で地理学を専攻され、昭和 50 年 3 月に、同大学院から「文学博士」の学位を取得されました。その後、立正大学助手などを経て、平成 3 年 4 月に本学教養部教授として着任されました。教養部の改組に伴う人事異動で、平成 13 年 4 月に法学部に移られ、さらに平成 18 年 4 月からは、人文学部の一員になりました。通算では 22 年間本学に奉職され、まさに人文学部がスタートする以前から本学にいらっしゃった、最古参の先生の一人です。

先生のご専門は地理学で、北海道の中山間農業地域における農業と農村社会の地域構造について、統計資料やアンケートなどを駆使した緻密な研究に従事してこられました。開発研究所の研究員として、研究所の研究ならびに運営にも多大な貢献をされました。教育面ではとくに、長年にわたって共通教育や教職専門課程に情熱を傾けられ、人文学部日本文化学科の高校の地歴免許の課程認定を受ける際には、とりわけ大きな働きをされました。さまざまな学内委員に加えて、学外的には、北海道地理学会代表幹事、北海道地理学会会長などの要職も歴任しておられます。

もうひとかたの小野寺静子先生は、昭和 41 年に北海道大学文学部をご卒業後、同大学院文学研究科修士課程および博士課程で国文学を専攻され、昭和 44 年に北海道大学文学部助手、昭和 51 年に札幌大学講師に就任されました。その後、札幌大学女子短期大学の助教授、ついで教授、さらに札

幌大学文化学部教授を経て、平成 13 年 4 月に本学人文学部教授として着任されました。

先生のご専門は日本の古典文学ですが、そのなかでもとくに万葉集を深く研究してこられ、その研究成果は二冊の単著『大伴坂上郎女』（翰林書房、平成 5 年）と『坂上郎女と家持一大伴家の人々―』（翰林書房、平成 14 年）に結実しています。坂上郎女の本格的な研究は、先生の論著をもって嚆矢とするといわれ、その手堅い研究手法はきわめて高く評価されています。本学においては、学部の教育・研究はもとより、大学院文学研究科の博士課程担当教員として、学生・院生の指導に大きな力を発揮して来られました。その真摯で誠実なお人柄と、学問研究に対する情熱とたゆまぬ研鑽努力は、まさにわたしたち人文学部の模範と言っても過言ではありません。学科は異なっていたものの、仕事の上で何度も一緒にすることがあり、わたしとしては個人的に随分お世話になった先生です。

敬愛するお二人の先生が、この 3 月末で本学を去られるのはとても残念ですが、今後ともわたしたちの学部を見まもり、引き続きご指導ご鞭撻下さるようお願い申し上げます。先生方のご健勝とますますのご活躍をお祈りし、はなむけの言葉とさせていただきます。